摂食状況のレベル｜FILS

A｜10段階の定義を基に、現在「食べている状態」を判定

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

対象期間：_____ 情報源：☐ 食事観察 ☐ 記録 ☐ 本人・家族

訓練の有無、実際の経口摂取、代替栄養・水分、食品制限を確認し、該当する1つのレベルを選びます。以下は原定義の要点を独自の表現で整理したものです。

段階	評価する状態	選択
1	嚥下訓練を実施していない。	☐
2	食物を使わずに嚥下訓練をしている。	☐
3	ごく少量の食物を訓練として使っている。	☐
4	経口摂取は1食分未満の楽しみ程度。栄養は代替手段が主となる。	☐
5	嚥下食を1〜2食、経口で摂取し、代替栄養も利用する。	☐
6	嚥下食3食の経口摂取が主だが、不足を代替栄養で補う。	☐
7	代替栄養なしで、嚥下食を3食摂取する。	☐
8	特に食べにくい食品を除き、3食を経口摂取する。	☐
9	食品を制限せず3食を経口摂取するが、摂食嚥下上の問題が残る。	☐
10	摂食嚥下に関する問題がない。	☐

今回のFILS：____／10 前回：____／10 判定保留：☐

1〜3は食事としての経口摂取なし、4〜6は代替栄養併用、7〜9は経口のみ。9と10は食事形態の違いではなく、摂食嚥下上の問題が残るかで区別します。

用語：嚥下食＝嚥下しやすいよう調整した食事。代替栄養＝経管・経静脈等の補給。疾患治療上の制限食と、嚥下のための食品制限を区別します。

出典・版の確認

藤島一郎監修：FILSの定義・用語 ↗

Kunieda et al.（2013）原著 ↗

FILS｜食事と支援

B｜追加の臨床記録 ― 評価本体の得点には加えません。

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

01 結果と生活場面をつなぐ

配膳した食数ではなく実際の摂取量と補給を確認します。レベルの上昇だけで誤嚥の減少を判断しません。

本人が困っている具体的な場面／本人・家族の言葉

検査で観察した事実／生活で確かめること

02 支援を一つ試す

記入例（架空）：3食の嚥下食に補給を併用しFILS6。補給量・水分・体重・食事時間を確認し、経口摂取だけで必要量を満たせるか検討する。

目標と、試す支援・環境・介助条件

実施日・場面	本人の行動・結果	必要な援助・負担

03 再評価

前回：_____ 今回：_____ 条件の違い：_____

次回確認すること・担当者・予定日

追加観察はSTROKE LAB独自欄です。検査の得点と、生活で実際にできたことを分けて共有します。